

**1 学校教育目標**

考える子（知）      心豊かな子（徳）      たくましい子（体）

**2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像**

○学校像	・学力の向上に取り組む学校	・居心地のよい学校づくりに取り組む学校	・体力向上に取り組む学校
○児童・生徒像	・考える子	・心豊かな子	・たくましい子
○教師像	・授業改善を推進する教師	・児童の可能性を引き出す教師	・子供と共に汗を流す教師

**3 学校の現状及び前年度の成果と課題**

【学校】 創立40周年で落成された校舎は、白を基調としながら木材も多く取り入れ、明るく開放的で機能性にあふれている。広いワークスペースと中庭に隣接したランチルームや学校図書館、音楽室、そしてエアコンのある広い体育館は特長のある自慢の施設である。大雨の際には、所どころ雨漏りがあり、その都度対応している。令和3年度、創立60周年を迎える。11月11日に記念集会、12月11日に記念式典を行う計画である。

【児童】 立ち止まって挨拶をする、かかとを揃えて靴箱に靴をしまうなど、学校としての取り組みを身に付けた素晴らしい児童の集団である。授業中に返事をする事、発言時に「～です」。「～ます。」をつけて受け答えをすることが課題である。

【教師】 本校が初任校の教員が9名で、年齢的に比較的若い組織である。研究や研修に真摯に取り組む、授業力の向上や教師力の向上に意欲的である。通勤時間が60分を超える職員が7名など、比較的通勤に時間が掛かる者が多く、緊急時等に参集できる職員が限られていることが課題である。

【保護者・地域】 保護者や開かれた学校づくり協議会は学校に大変協力的である。

【前年度の成果と課題】 タブレットを活用した授業が多く行われた。分かりやすい授業や個別最適な学びと協働的な学びに向かった取り組みの推進が図られた。学力向上には、日々の授業の充実を第一とし、今後も足立スタンダードに則った授業展開を一層推進する。自己肯定感や自己有用感を高めるために、組織として取り組んだ。「親和的なまとまりのある学級集団」を目指し、一人一人に細かく目を配り言葉掛けや教師の関わり方を工夫する。体力向上は引き続き課題である。新型コロナウイルス感染症の状況を冷静に判断し、外遊びの励行や体育研修による指導力の向上を図るように努力する。

**4 重点的な取組事項**

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R1	R2	R3	R4	R5
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	豊かな心の育成	○	○	○	○	○
3	健やかな体の育成	○	○	○	○	○

## 5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
授業力の向上と基礎学力の定着率向上		令和3年度目標通過率 国語 80.0 算数 80.0 2月到達度確認テスト 国語 75.0 算数 75.0		目標通過率 国語 82.4 算数 83.4 2月到達度確認テスト 国語 73.5 算数 77.5		4月調査では達成基準を超えたが、区平均未 満であった。学習の定着状況と具体的な取組 は6(1)を参照」2月到達度確認テストは、 国語で基準に届かなかった。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・ 継	アクション プラン	対象・実施 教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継	朝学習	全学年 全児童 国語	週3回 年45単 位時間 程度 始業前 15分	【誰が】担任 【何を】新出漢字等の言語事項 【どのように】漢字ドリル・ワー ク等 言語事項の指導。 読み書きの練習やテストを継続し て実施。習熟を図る。	ワークの 漢字50問 テスト 漢字習得 強化月間 結果	正答率 80%以 上の児童が8割 以上	正答率 80%以上の児 童8割以上7学級。 7割5分以上4学級。 7割以上4学級。	デジタル教材も活用 し、漢字指導を行っ た。 定着率向上が課題で ある。	△
2 継	補習タ イム	全学年 個別指導 を要する 児童 国語・算 数	1～3年 月曜日 4～6年 木曜日 毎週 放課後	【誰が】担任・専科 【何を】つまづきを解消 【どのように】教科書・ドリル・ プリント、授業中の課題、理解や 習熟が不十分な点を補う。少人数 で実施。下位層の底上げを図る。	ワークテ スト	正答率 80%以 上	ワークテスト80%以上 9学級が達成	緊急事態宣言等によ り、予定回数の補習 は実施できなかった。	△
3 継	授業参 観	全教師 全教科	通年 各自最 低1回	【誰が】全教員 【何を】模範授業等の参観 【どのように】参観後、報告書等 で校内周知、情報共有を図る。	報告会	全員最低1回	全員の参加はできな かったが、13名の教 員が参加した。	2回以上参加した教 員が3名。オンライ ン等で臨んだ教員が 10名。	○
4 継	I C T 活用	全教科	通年	【誰が】全教員 【何を】I C T機器を活用 【どのように】個別最適な学びを 進め、分かりやすい授業を行う。	利用回数	インターネット検索、 プレゼン機能を用 いた授業を 月4回以上	ゲーグルクラスルーム等を活 用し、全教員がタブ レット端末を使用した授 業を実施した。	教員の技術力向上は 継続した課題であ る。	◎

重点的な取組事項－2		豊かな心の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
自己有用感を高める		大人になった時の夢や希望がある 自分のことが好き よいところがある についての肯定的評価80%以上	大人になった時の夢や希望がある 86.3% 自分のことが好き、よいところがある 76.6% 平均 81.2% 昨年より 0.5ポイント上昇	自己肯定感、自己有用感を高めるには、日頃からの声掛けや励まし が大切。	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
みそあじの徹底	みそあじを意識して実行したという肯定的評価、児童アンケートで85%以上	身だしなみ、掃除、挨拶、時間を守る、の項目について、全校統一して指導をする。	「みそあじを意識して実行した」 1月実施の児童アンケート 肯定的評価 87.3%	コロナ禍で制限がある中、児童への指導が良く浸透で来た。引き続き丁寧な指導を行う。	◎
特別活動の充実	学校が楽しいという肯定的評価 90%以上	係活動、委員会やクラブ活動を充実させる。	「学校が楽しい」 1月実施の児童アンケート 肯定的評価 94.1%	「授業が楽しい・楽しみ」については、85.7%が肯定的な回答。	◎
読書活動の充実	年間読書冊数、全校で4万冊以上 図書貸出冊数、全校で2万冊以上	図書館支援員、副校長補佐、SSSによる、休み時間等の図書貸出の充実	年間読書冊数は2月で、全校で29,198冊。 貸出冊数は1月15日で21,186冊を達成。	臨時休業や4時間授業、昼読書の時間を設けることができなかった影響もあり、目標は達成できなかった。	△
体験活動の充実	体験活動が楽しいという肯定的評価 90%以上	出前授業の実施 遠足、校外学習の実施 自然教室の事前事後指導の充実	「体験活動が楽しい」 1月実施の児童アンケート 肯定的評価 95.6%	1・2年生は徒歩遠足を実施。	◎
いじめのない学校	感染症等を話題にしたいじめについての児童や保護者による訴えゼロ	校長による講話 生活指導主任による指導 担任による定期的な指導	感染症等を話題にしたいじめについての児童や保護者による訴えは0件。 定期的に講話・指導を実施した。	相手の気持ちに寄り添える子、他者を傷つける言動がないかを考えられる子の育成を継続する。	◎

重点的な取組事項－3		健やかな体の育成			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
心と体の健康に気を付け、元気に遊び生き生きと生活する		東京都体力調査で区平均を上回る	体力調査 48 項目で足立区平均を上回ったものは、男子 33 項目、女子 29 項目。20mシャトルランは、全ての学年が足立区平均以上であった。また 3 年生と 4 年生の男子は、全項目で足立区平均以上であった。	1 年生女子、6 年生男、2 年生男子では区平均に届かなかった項目が 3 項目以上あり、課題が残った。様々な休み時間の形態が増え、外遊び時間の確保は継続した課題である。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
投力向上	5 年生体力調査のボール投げの平均値 男子 21m、女子 14m	投力向上プロジェクト実施 体育の時間、休み時間	5 年生ソフトボール投げの結果 男子 17.8m、女子 11.5m 目標に届かなかった	体力向上プロジェクトを実施したが、継続していく。 区平均を上回ったのは、男子 1・3 年、女子 2・6 年。	●
長なわ島根記録更新	R1 学校記録を上回る 全体で 2 9 4 6 回	長なわ研修の実施 長なわ旬間の設定 短なわ旬間の設定	新型コロナウイルス感染防止の観点から、長なわ記録会は、今年度実施しなかった。 短なわ旬間を設定し、個人の取組を進めた。	なわ跳びは、持久力アップと調整力を高めるのに有効であるので、来年度以降実施する。	/
食育の充実	一口目は野菜からの実施 6 年生の割合 90% R2 残菜率を下回る	校長の講話 担任による指導 栄養士による指導 給食室からの今日の一言 給食委員会の働きかけ	1 月 14 日現在、今年度の残菜率は、全体で 1.2%、汁物は 1.9%で目標を達成した。一口目は野菜からを合言葉に、毎回の給食をスタートさせ、担任をはじめ子ども達にも意識が浸透した。一口目は野菜からの実施 6 年生の割合 %	毎日、検食簿にコメントを書き、栄養士や調理業者と連携している。 給食通信の効果も高い	◎
感染症予防	感染症等による閉鎖ゼロ	あい・て・ます・かの指導と実践	学校だより、朝会講話等で必ず触れるようにした。1 月 17 日現在、閉鎖はゼロ。	感染症対策は今後も十分に取組んでいく。	◎

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### ア 学力向上アクションプランについて

##### 【課題】

2年生・3年生は、国語算数共に通過率が全国値を下回っており、学習の定着状況に大きな課題がある。また5年生は、国語算数共に通過率が区平均を下回っている。朝学習、補習タイムの実施は予定通りであった。模範授業等への参加は、新型コロナウイルス感染症対策もあり、全職員が実施することはできなかった。その分、校内でのOJTとして、教科指導専門員による指導、年次研修等の授業を参観することをした。ICT活用はデジタル教科書等を中心に利用しているが、児童が自分の端末を利用する機会は、担任の力量の差による。

##### 【対策】

足立スタンダードの授業展開を基本として、今後も校内全体で授業力向上に努めていく。またICT機器を効果的に活用し、授業・補習・個別学習において、個別最適な学びを追求する。各自が自学自習できる「おまかせ教室ラインズeライブラリ」や「AIドリル」の活用を進めていく。さらに朝学習と補習については、内容について一層の充実を図りながら、ワークテスト等の再テスト再々テストなどを粘り強く実施することで、定着を促していく。

#### イ その他課題及び解決の方向性

新型コロナウイルス感染症対策のために、直接的な話し合い活動や交流活動が実施できなかった。子どもたちの学力を伸ばすには、日々の授業の充実が第一であると考え。今後も教材研究や研修の充実を図り、足立スタンダードに則った授業展開を一層推進する。

Hyper-QU調査、いじめアンケート、体罰アンケートなどの結果を真摯に受け止め、自己肯定感や自己有用感を高めるために、学校組織としてできるだけ肯定的な言葉掛けを心掛けていく。「親和的なまとまりのある学級集団」を目指す。今後も一人一人に細かく目を配り、日頃からの言葉掛けや教師の関わり方を工夫する。

体力向上は引き続き課題である。新型コロナウイルス感染症の状況を冷静に判断し、外遊びの励行や体育研修による指導力の向上を図るように努力する。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策を実施しながらの教育活動となりました。みんなに聞こえるように大きな声で、のどの奥まで見えるぐらい口を大きく開けて、じっくり友達と話し合っ、色々な学年の人やクラスの友達と協力し合っ等々、本来であれば望ましいと思われる行動を制限しながら、学習を進めました。

特に学校行事に関しては、まずは実施することを第一に考え、その中で工夫をしながらできる範囲の内容について検討を重ねて、行って参りました。新しい学校の日常を基本として、子ども達の笑顔が少しでも増えるようにこれからも努力していきます。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

特別活動等を中心とした、人との関わり合いの減少が気掛かりなところです。縦割り班活動や教科学習の中での異学年交流、学年内での全体活動等の機会をできる範囲で増やしていきたいです。